

# 武道授業

## 実践の概要紹介

### 湯沢市立山田中学校における

### 武道授業の実践紹介

湯沢市は秋田県の南東部に位置し、秋田県の南の玄関口として宮城県、山形県の両県に接しています。平成17年3月に湯沢市・稲川町・雄勝町・皆瀬村の4市町村が合併し新たな「湯沢市」が誕生しました。この地域は平安期の才女、小野小町の生誕地ともいわれ、多くの史跡や伝承が守り継がれています。

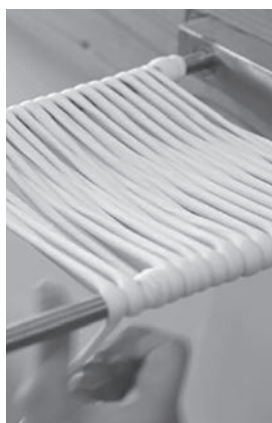
湯沢市における「未来を託す子どもたちと若い世代を育み、古き良き歴史と文化に満ちたふるさとに誇りをもち、思いやりのあるたくましい人づくりを目指します」という基本理念の下、湯沢市立山田中学校では「自分の花を咲かせよう、温かな心を持ち、磨き合い高め合う生徒の育成」という教育目標を掲げ、教育活動に取り組んでいます。



湯沢犬っこ祭り



七夕絵どうろう祭り



稲庭うどん

湯沢市教育委員会

# 1 はじめに

湯沢市立山田中学校は、湯沢市の西側に広がる田園地帯にある。少子化が進んでおり、全校生徒は51名（1年生11名、2年生17名、3年生23名）の小規模校である。必修化以前から武道授業は柔道を実施してきたが、授業の度に少人数で体育館のギャラリイから畳をフロアに降ろして敷き詰める作業が伴うこと、畳のストッパーがなく安全面で問題があること等の理由から、柔道に対する生徒の好意性は低いという実態があった。また、保健体育の担当教師は、「思い切って技を繰り出すことが楽しい」という柔道の機能的特性にふれる指導に苦慮していた。

そこで、今年度から赴任した柴田浩義校長が保健体育科の教員免許を有する剣道経験者ということもあり、武道の授業は全学年で剣道を実施することとした。

剣道の授業は場の設定が簡単で、竹刀の破損と打突に対する受け方の指導を確実に行えば事故の心配は極めて小さいという要因も大きかった。

また、学校のブログで授業の様子を発信し、保護者の理解を得るとともに、剣道の魅力を地域に広げることも試みた。

9月28日の記事



昨今、TVなどのメディアで取り上げられている、プロスポーツ界、アマチュアスポーツ界の様々な暗い話題や、審判の判定を覆すビデオ判定の導入等は体育教師の私（柴田校長）に、「スポーツや体育は、これま

で子どもたちに何を与えてきたのか？」という自問の機会を与えてくれました。そんな思いを抱きながら、今週から保健体育の授業で「剣道」を行っています。（中略）

左の写真は、面打ちの様子です。そして、下の写真は「竹刀で新聞紙を真つ二つに切るにはどうしたらよいか」という課題の解決に向けて三人一組になって取り組んでいるところです。



# 2 授業概要

## 1 単元名

やってみて分かる剣道の奥深さ

## 2 単元目標

(1) 日本古来の伝統文化である剣道の基本的な技能を身に付けることができる。  
 (2) 人間尊重の精神に基づいた礼法や所作を身に付けることができる。

## 3 学習内容

- A 知識及び技能
- ① 剣道の特性と成り立ち（伝統的な考え方）
  - ② 着装と礼法・所作
  - ③ 構え（身構えと気構え）
  - ④ 中段の構えと構えの解き方
  - ⑤ 体さばき（歩み足と送り足）
  - ⑥ 基本打突の打ち方と受け方（面、小手、胴）

## ⑥ 連続技（小手→面）

- B 思考・判断・表現（評価規準）
- ① 技能習得における自己の課題を設定している。
  - ② 身に付けた礼法、所作、基本打突を演武として仲間伝えていく。
  - ③ よりよい身体動作について相互評価し、その理由を仲間に伝えている。

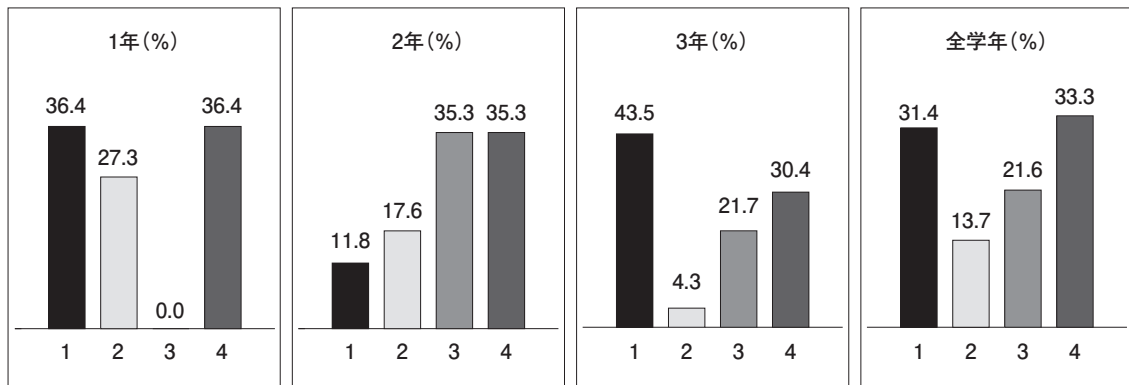
## C 学びに向かう力・人間性

- ① 学習の約束を守り、安全に気を付けようとしている。
- ② 用具の準備や着衣を協力して速やかに行動している。
- ③ 分担した役割を果たそうとしている。

## 4 学習計画（8時間）

0	1	2	3	4	5	6	7	8
	A ① オリエンテーション	着装 礼法 (A ②) 本時の課題の確認						B ③ 演武（審査形式の相互評価）
10		対人感覚を養う剣道のアナログン						
20								
30		構え 体さばき 基本打突（受け方）						
40		(A ③)	A ④	A ⑤)	有効打突			
50	(A ⑥)	B ①	C ①	C ③)		B ② 演武（礼法・所作と基本技能をつないだ一連の動作）		

(1~4はアンケート選択項目)



礼法を学ぶ

・ 有意義な授業でした(3年男子)。  
 ・ 映画や小説をきっかけに武道に興味をもっていたので、授業で体験できてよかったです。難しくてもできないことだらけだったけど、毎時間がすごく楽しかったし、もっと武道について知りたいと思いました(3年女子)。  
 ・ 古来に誕生した伝統ある剣道を体験することはとても貴重だと感じた。心身を清めるいい場に

《教員向け夏季研修の様子》



タオル取りゲーム

### 3 授業の実際

#### 1 竹刀と剣道衣、袴

学校指定体育着のまま、竹刀を持つて剣道の授業をすることも可能だが、生徒の意欲や緊張感が剣道衣を着た時とは大きく違う。本校には剣道部がないので、剣道部のある近隣4中学校と地域の剣道



剣道衣を着て授業をすることによって、生徒の意欲や緊張感が高まる

愛好者に声をかけ、使っていない剣道衣、袴、そして竹刀を提供していただいた。剣道衣と袴は洗濯をし、竹刀は手入れをして使える状態にして授業に臨んだ。

#### 2 礼法と所作

自然体、提げ刀、立礼、帯刀、歩み足、抜刀と蹲踞、中段の構えといった一連の動作の指導は、思いの外、円滑に進んだ。自然体や礼の仕方については、学校の儀式的行事にも役立つという指導が奏功した。

#### 3 剣道のアナログ

アナログとは下位運動群のことである。対人感覚を養うために二人組でのタオル取りゲームを行ったり、有効打突につながる刃筋の意識をもたせるために三人組で

の新聞切りを行った。生徒たちは全員が剣道未経験者なので、初めての剣道に対する緊張感から解放される時間となった。新聞切りについては、「どうしたら、新聞紙を真っ二つに切ることができるだろうか」というHow to型の学習課題を設定して行ったところ「竹刀を真っ直ぐ振り下ろす」「竹刀の速さ」「グリップレッシャーのバランス」「物打ちを使うとよい」といった有効打突につながる発言があり、その後の学習に生きる活動となった。

#### 4 空間打突と実際の打突

面、小手、胴の空間打突では、指導者が剣道具を着け、打突部位を見せてイメージづくりをさせた。生徒用の剣道具はないので、竹刀での受け方の指導をしてから、打突部位にあたる位置の竹刀を打つことにした。

打った後に左足が残ったり、正中線から左拳が外れたりといった課題については、三人組による相

互評価をしながら教え合う活動によって改善が見られた。

#### 5 演武

座礼を含めた礼法、所作と連続技の小手↓面打ちを一連の動作とした演武を行うことを課題として、相互評価をし課題解決をねらった。一連の動きを覚えるために時間を要したが、三人組にして一人を審査役にし、次の動きを教え合うことを繰り返すことで解決した。



生徒用の剣道具がないので、打突部位にあたる位置の竹刀を打つことにした

### 4 成果と課題

#### 1 成果

- ① 授業後のアンケートから《選択項目》  
 1 礼法や所作が将来の生活に生きたる学習だった。  
 2 相手を尊重する心に気付く学習だった。  
 3 実際に防具をつけて試合をし

たくなる学習だった。  
 4 知らなかった剣道の世界に入ってみて新鮮な気持ちで学習することができた。

上のグラフから、初めて経験する剣道に対する新鮮さと、将来に役立つ有用性を感じている生徒が多いことが分かる。

#### ② 単元終了時の感想(抜粋)

・ 剣道衣を着たり竹刀を持ったりすると毎回気が引き締められました。その緊張感の中で将来につながる礼法や所作を学ぶことができたので、剣道の授業は毎回有意義な授業でした(3年男子)。  
 ・ 映画や小説をきっかけに武道に興味をもっていたので、授業で体験できてよかったです。難しくてもできないことだらけだったけど、毎時間がすごく楽しかったし、もっと武道について知りたいと思いました(3年女子)。

#### 2 課題

① 剣道具等について  
 グラフにも表れているが、実際に剣道具をつけて試合をしてみた

なっただと思う(3年女子)。  
 ・ 最初は難しいと思っていたけど、回を重ねるたびにどんどん楽しくなっていた。今回で終わってしまうのは残念だけど、これまでに学んだ相手に対する気持ち大切にしておきたいと思った(3年男子)。

《教員向け夏季研修の様子》



中段の構え



新聞切り



研修を終えて



空間打突

## 5 おわりに

いと感じている生徒がいる。学校予算では剣道具は購入できない。古い物を提供してもらおう方法もあるが、衛生面の問題がある。剣道具の購入について検討する必要がある。

### ② 指導者について

県教育委員会の事業を活用したり、地元の剣道経験者、有段者に外部指導者として参画いただいた

りといった、生徒の意欲の高まりを今後につなげる、よりよい方策を検討する必要がある。

そこで、湯沢雄勝地区の湯沢雄勝教育研究会運営協議会体育研究会では、今年、夏季休業中の研修会で剣道の実技研修を行った。これにより、教員の剣道に対する理解につながったと考えている。

「体育やスポーツは、これまで子どもたちに何を与えてきたのだろうか」という課題に立ち返れば、

反省、打たれて感謝という精神を大切にしている」。

心と体を鍛えるという本質が時として忘れられ、勝敗のみにこだわる指導が存在することに疑問を感じることもある。

今回の授業の中で、最も印象深い言葉として生徒たちが挙げた言葉が、この二つであった。

「剣道では、試合の対戦者を敵とは言わず、相手という。相手とは自分を高めてくれるパートナーである」。そして、「剣道は、打って

人間尊重の精神に生徒たちが気付いてくれた証としてうれしく思う。

文責 湯沢市立山田中学校

校長 柴田浩義